

「長」がつく立場に必要なもの

昨日、多くの学級で班編制が行われ、級長班長といった「長」がつく立場の生徒が車座になって、原案づくりをしている光景を目にしました。「長」といえば、私には忘れられない生徒がいます。今日は、彼のことについて書こうと思います。

A男は班長でした。私の学級の生徒ではありませんでしたが、私の掃除担当場所の生徒でした。彼の班の男子がほうきを振り回して遊んでいたので、掃除が終わってからその生徒を呼んで注意すると、その間中、A男が一步下がったところはずっと立っています。まるで、A男が注意を受けているかのように。注意が終わってから彼は私に近づき、こう言いました。

「先生、すみませんでした。僕も何度も注意したのですが、ぜんぜん聞いてくれなくてあきらめていました。でも、遊んでいた彼をしつかりされられなかったのは（班長の）僕の責任です。今度からは、聞いてくれるまで注意します。」

班員のために頭を下げたA男でした。何度も注意するだけでも尊いことなのに、注意を受けた班員に代わって頭を下げたことに、私は感動しました。班という最も小さな集団の中で、リーダー性を確実に発揮している生徒がいることを、とてもうれしく思いました。彼はその後、学級のリーダーに成長しました。

このような目立たないところで動きや働きの中に、真のリーダーとしてのあるべき姿が存在します。リーダーに必要なものは、人前で話す力や行事を進めていく力だけではありません。最も必要なのは、責任感です。「長」という字は、責任感があるということを表していると思います。

さあ、「長」のみなさん、これからがんばってね！ あっ、私にも「長」が付いていた！人ごとじゃないね。がんばらなきゃ！

（六月十二日 記）

